

## 製造業は依然回復傾向にあるものの、非製造業は足踏み状態となる

9月の情報連絡員によると製造業は依然として、DI値は回復傾向が続いている一方、非製造業はやや足踏み状態にあるといえる。製造業の景況DI値は先月に比べ10ポイント以上好転したが、非製造業については逆に数ポイント悪化した。情報連絡員からの具体的な報告によると、自動車関連産業等において引き続き売上増加の報告がなされているが、他の業界においては収益確保のため、コスト削減に苦心している状況が伝えられている

【製造業63人、非製造業、87人、計150人の集計】

### 各項目のDIの動き（前年同月比）

	全 体	製 造 業	非製造業
売 上 高	😊	😊	😊
在 庫 数 量	😊	😊	😊
販 売 価 格	😊	😊	😊
取 引 条 件	😊	😊	😊
収 益 状 況	😊	😊	😊
資 金 繰 り	😊	😊	😊
設 備 操 業 度	😊	😊	😊
雇 用 人 員	😊	😊	😊
業 界 の 景 況	😊	😊	😊

- 😊 …増加、上昇、好転
- 😐 …不変
- 😞 …減少、低下、悪化

## ✓ 行政庁・中央会に対する主な要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	主な要望事項
鉄鋼・金属	建築金物製造業	円高の独歩高を是正する必要がある。このままでは失業者の増加が止まらないのではないかと。
卸 売	鶏肉・鶏卵卸売業	景気回復への一層の取り組みを望む。
小 売	化粧品小売業	人気の繁華街を除き、組合員が加入している多くの商店街ではシャッターが閉じている店舗が増えている。お年寄りが近所の商店街で最低限の買い物ができるよう緊急の対策を講じていただきたい。
	酒小売業	医療費を含めアルコールがもたらす社会的コストは余りに膨大で、酒税収入を考慮しても国の負担は膨大なものと思われる。昔から営業している酒小売店は未成年者への販売など絶対行わないが、現在の未成年者への飲酒に対する社会環境はあまりにルーズとなっている。酒小売の規制を再度強化すべきと考える。
	豆腐小売業	日本の食文化を保護育成するための法整備を望んでいる。
サービス	飲食業	組合員は町工場の多い地域で飲食店を営んでいるが、町工場がどん底の状態では外食など行うはずもない。政府は景気対策を優先とするよう政策を変更してほしい。

平成22年  
9月

# 業 界 の 声

製 造 業		
集計上の分類業種	具体的な業種	組合及び組合員の業況等
食 料 品	麺製造業	売上は厳しい。ラーメン店はブームのつけ麺に一齐に力をいれ、夏の定番メニューの冷やし中華をメニューから外す店舗が増えたが、客離れの原因にもなっている。
	製粉業	10月から輸入麦の政府売り渡しルールが変更されることに伴い資料作成に追われ、国の指導も明確ではないため現場は混乱している。
繊維・同製品	帽子製造業	9月前半は残暑のため、秋冬物の動きが悪かった。また、今年度は繊維製品の特恵関税が見直されるため、業界に大きな影響が出ることが予想される。
	帆布製品製造業	今年度は9月に至るまで売上は大きく減少している。引き続き在庫調整や一般管理費の削減に努めているが限界に達している。
	ニット製品製造業	国内の景気が上向いてきたとの報道もなされているが、中小企業、特に製造業にあってはその実感はない。9月の組合脱退者数は4社。
	洋服製造業	加工賃を海外生産並の金額まで引き下げるように要求され、売上高が激減している。
木材・木製品	建具製造業	9月は比較的順調に推移したものの、業界に景気の回復感はない。各組合員とも経費の大幅削減に努めている。
紙・紙加工品	包装材料製造業	取引先の多くが輸出企業であり、長引く円高の影響で荷動きは停滞している。
印 刷	印刷業	主要材料であるインキが9月出荷分より値上げされることが発表され、今秋以降の影響が懸念されている。円高による影響は少ない模様。
	印刷加工業	秋口になって売上は上向いてきたが、前年比では増加とはなっていない。
化学ゴム	プラスチック製品製造業	9月の売上は前年並みであったが、材料の値上げ分を商品価格に転嫁できなかったため、収益は若干低下した。10月以降の見通しは季節品を除き厳しい模様である。
	ゴム製品製造業	自動車関係が好調な一方、建設関係は未だに不調である。
窯業・土石製品	コンクリート製品製造業	官公需・民需とも前年を下回る発注状況の中で、価格競争が激化している。受注金額については組合員の満足する額に達していない。
		業界は公共事業依存体質を改める必要がある。
鉄鋼・金属	缶製造業	円高の影響が懸念される。
	ダイカスト製品製造業	エコカー補助金が終了したことにより、自動車販売は減少している。10月以降は15%の受注減となる模様。
	鋳物製造業	一部の組合員について売上は多少増加傾向にあるが、需要全体は縮小傾向にある。
	鍍金加工業	労働者派遣に頼れないため、受注量の変動に対して、必要工数の調整が難しくなっている。雇用を増加せざるを得ない状況で、受注が今後減少してくると、人件費が問題になってくると思う。
	建築金物製造業	景況感は組合員間にばらつきがあるが、「業界の景況が浮上する見通しは、全くない。」との声も聞かれる。
一般機械	写真製版機材製造業	販売価格は低下しているものの、売上は増加し、収益も前年より伸びている。各組合員とも経費を切り詰め収益確保に努力している。
	木工機械製造業	他業界では好転しているとの情報もあるが、木工機械の状況は低迷したままであり、むしろ昨年のほうが状況が良かったとの声もある。雇用調整助成金をまだ受給している組合員もある。
その他の製造	スポーツ用品製造業	2009年度のスポーツ部門の市場規模は前年比で2.4%の減少となった。各社の売上状況は厳しいが、品質を落とさずにコストダウンに努めており、利益が上がる体質となりつつある。分野別にはランニング用品、スポーツ自転車、登山・キャンプ用品が比較的堅調である。
	ガス圧接業	稼働率は乱高下して月ごとの受注量にバラツキが出ている。夏休み明けの稼働率の上昇は長く続かなかった。
	工業塗装業	売上は増加し収益も好転しましたが、比較対象となる前年度があまりに悪化していたため、回復実感はない。しかも10月の受注状況は大きく悪化しており、先行きが懸念される。



平成22年  
9月

# 業 界 の 声

## 非 製 造 業

集計上の分類業種	具体的な業種	組合及び組合員の業況等
卸 売	美容用品卸売業	昨年実施した「東京理容まつり in 浅草」には約 2,000 名が来場し、成功裏に終わったため、来年度も実施することが決定した。
	美容用品卸売業	引き続き業界は上向き傾向にある。
	鶏肉・鶏卵卸売業	消費者の低価格志向を反映して売価が下落する傾向にある。売上は前年比 95～100%の組合員が大半。今後業界は売上ベースが 90%まで下がっても利益の出る体質にする必要がある。
	青果卸売業	仕入れ高は前月比 116%と増加したが、その要因は猛暑による品不足と価格高騰にある。
	木材卸売業	現地価格が上昇しているため、円高でも仕入値が下がることはない。売上は全体的に低調である。
	紙卸売業	秋の需要を期待したが逆に 2 桁台の売上減少に陥った。資金繰りの一層の悪化が懸念される。
	電気資材卸売業	猛暑によりエアコン関係の資材の売上は増加したものの、建築関連資材の状況は依然として厳しい。
	玩具卸売業	9月も猛暑が続き、来客数は減少。売上は前年比 90～95%前後で推移した模様である。
	電線卸売業	国内需要の明暗がユーザーごとに分かれている。家電や半導体製造機械関係が好調。一方、建設関係や通信関係の足取りが重い。
	再生資源卸売業	組合においてリーダー養成研修会を実施するなど、教育活動を充実させている。
	食器卸売業	不況が続き体力のない企業は非常に厳しい。組合員 1 社が廃業により組合を脱退した。飲食店の食器の買い控えと低価格商品の増加が原因と思われる。
	ニット製品卸売業	組合員の脱退が増加。秋冬物の売上は伸びつつあるが、夏場の不振の影響を引きずっている。また、納期の遅延など、中国との取引関連のトラブルが多発している。
小 売	ペット小売業	農水省が 5 月に発表した野鳥の調査では鳥インフルエンザについて陰性との結果が出ている。ただ、世界を見ると依然家禽の鳥インフルエンザは発生しており、発生国からの家禽と愛玩鳥の輸入は停止している。このため生鳥の在庫が減少している。
	木材小売業	一戸建て住宅関係が少しずつ動いてきている。9月 は前年より良い結果となる模様。
	古書籍小売業	業界は依然として厳しいが、10月 は読書の秋にちなみ、各地でイベントが行われる予定である。
	自動二輪車小売業	組合員に電動バイクについてアンケートを実施したところ、中国製を中心とした海外製品は扱わないとの回答が大半であった。中国製品の信頼性は低く、保守体制も確立されていないことが理由である。業界では電動バイクのガイドライン作りが議論されている。
	豆腐小売業	廃業者 4 件あり。売上不振と組合員の高齢化が最大の要因。大手メーカーの安売攻勢に対抗策がない。
	家具小売業	景気とともに、家具小売業界の環境変化により組合員の進路は一層厳しくなっている。
	包装材料小売業	飲料やアイスクリーム、エアコン関係等、夏物商品の梱包用段ボールが、猛暑のおかげで好調であった。しかしながら、自動車・家電関係の補助金終了や縮小で今後の先行きが危ぶまれる。
	電器製品小売業	夏物商戦が延長し、久しぶりに地域小売店に活気が出た。エアコンの売上は前年の 2 倍。また、液晶テレビは台数で 2.5 倍、金額ベースでは 1.3 倍程度の実績であった。来年のアナログ放送終了を意識して、アンテナ工事を含めたテレビの買い替えが増えているが、年末に向けてさらなる増加を期待している。
	中古自動車小売業	エコカー補助金が終了したが、新車の売上がなければ下取車も発生せず、中古車の増加は望めない。
	衣料品小売業	9月に入っても猛暑が続き、秋物衣料全般の売上が伸び悩み、売上高は前年比で大きく落ち込んだ。
	化粧品小売業	9月理事会で 5 組合員が廃業したことが報告された。店舗の収支状況を見れば、引継ぐ後継者はいない。
	文具小売業	消費者の低価格志向は強く、高額な商品については通販か量販店で購入している。文具店には値の張らない消耗品購入や、厄介な修理依頼といった来店ばかりである。廃業し家賃収入を検討する組合員が多くなった。

小 売	食品小売業	前年比の売上は、ようやく99%まで回復した。しかしながら、長かった暗いトンネルがこれで終わったとは考えていない。ただ、天候不順が続いた状況を鑑みれば善戦したと言える。また、タバコ値上げ前の駆け込み需要が売上を押し上げた。食材が豊富で業界が活発となる秋商戦を期待したい。
	各種商品小売業	組合員の売上高は前年比マイナスの状況が続いている。組合の主要事業であるカード事業の売上は前年比3.3%前後悪化している。
	青果小売業	全ての野菜が高値で推移しているが、この状況は関東近県の野菜が出回る10月まで続くと思われる。消費者の購入する金額で販売することは収益の点で難しく、非常に厳しい状況となっている。
商店街	目 黒	取引条件等、最悪の状況は脱しつつあるように感じられる。
	秋葉原	3Dテレビの期待が高まっているが、通常型のテレビ価格は下がってきている。前半の猛暑の影響もあり冷蔵庫等の動きは良い。円高で米国・ヨーロッパ等の外国人の財布の紐はかたい。
	銀 座	景気の好転する兆しが見えてこない。
サービス	クリーニング業	夏物衣料は大抵、家庭で洗濯される。しかし夏物衣料についてもファッションにこだわる層はクリーニングを利用する。こうした顧客を大事にすることが重要である。
	廃棄物処理業	荷動きについては若干落ち着いた動きとなっている。再生資源物の市場は若干上向いてきている。
	複写業	公共工事関連の悪化で売上の減少が進む一方、デジタル化を果たした組合員は好転する兆しも見えている。
運 輸	貨物自動車運送業	デフレ経済下で運賃は低く抑えられたままである。そのうえ過当競争に陥っているため、収益率は悪化。車両台数10台以下の小規模組合員はさらに減車をを行い事業規模を縮小することで経営を維持している。
	港湾運送業	8月の主要5大港における輸出入額において東京港が3ヶ月ぶりにトップに返り咲いた。さらに全港とも8ヶ月連続で前年を上回っている。
建 設	内装工事業	組合員の事業は縮小し廃業者も発生。脱退組合員が増加している。